

観光社会資本の事例

テーマ 城下町津和野の風情にマッチした歩行空間の形成

【施設の状況写真】



周辺の歴史的建築物と調和するデザインが施されており、城下町としての風情を引き立てています。



夜間には、灯籠型のフットライトが町の魅力を高めています

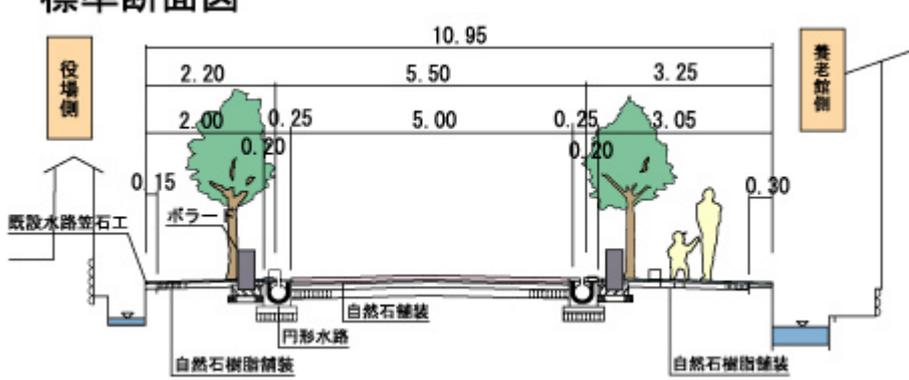
【施設の利用写真】



山陰の小京都津和野町には年間約100万人の人々が訪れます。

【観光資源としての利用状況】

殿町通りは、津和野観光のメインストリートです。通りに面して白い土塀と堀割が続き、堀割には、色鮮やかな鯉が泳ぎ、6月ごろには、約2,000本の花菖蒲が咲きます。また、祇園祭(鶯舞神事)や奴行列等の舞台としても利用されており、津和野を訪れる観光客を楽しませています。

テーマ	城下町津和野の風情にマッチした歩行空間の形成
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 主要地方道萩津和野線（<small>はぎつわの</small>殿町通り）</p> <p>所在地 津和野町大字後田（<small>つわのちょう うしろだ</small>）</p> <p>事業名 特定交通安全施設等整備事業</p> <p>事業主体 島根県</p> <p>事業期間 平成 10～ 12年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>歩行者の安全性確保</p> <p>殿町通りの整備では、従来の歩道の幅を広げるとともに、車道の幅を1m狭め、石畳舗装としたことにより、ドライバーの心理的效果によって車の速度が抑えられたため、安全な空間が創出され、観光客が快適に津和野の町を散策できるようになりました。</p> <p>標準断面図</p> 	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>観光協会・イベント関係 http://www.iwami.or.jp/tsuwanok/index2.htm</p>	